

学校名	川辺小学校		
ホームページURL	児童数 576名		
(1) テーマ 「私たちの大根基金をつくろう」  テーマの分類( ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください  学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ 該当学年 6年		
(3) 活動のねらい 子どもたちが地域の多くの人々と関わり、自分で考え、自分で決めて、自分で行動する事を通して、人の温かさやありがたさに気づくとともに、ふるさとの中で自分を大切にしていこうとする気持ちを持つ。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) この活動は4年生から6年生まで3年計画で行った実践である。 4年 野菜を作って販売し恵まれない人のために役立てよう 畑を探そう。 ジャガイモや大根を作ろう 農協を通して大根を手紙つきで出荷しよう 学校で大根屋を開き地域の方に買ってもらう 出荷を通して知り合った東京の方々とは紙で交流しよう 5年 大根基金を作ろう 修学旅行も大根で知り合った方々と交流できるものにしよう。自分たちで考えて修学旅行をつくろう。 6年 大根で知り合った方々と交流する修学旅行 最後の大根屋を開こう。 大根基金の使い道について考えよう お金の大切さ、働く事の大切さを経験するために町に出て働こう。自分たちで調べて大根基金の一番いい使い道を考えよう。 世界の現場で働いている人から話を聞こう 大根基金をきちんと顔が見える関係、心を使える関係にして手渡そう。 お世話になった方々をお呼びして自分たちの卒業式を創ろう 時数(本年度時数70)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) 学年体制で行ってきた。その都度学年会を開き、学級の枠を取り払っての活動を展開してきた。職員会でも機会あるごとに話題として取り上げてもらった。地域の方々とのつながりは、予想もつかない思いがけない展開がいくつもあった。「人材の活用」というような冷たい関係は全くなかった。温かな人のいきざまに学んだし、心を通わせてきた。地域素材は人、教材化の視点は心である。			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) 基本的には学年会がどう機能するかが一番大切だったと考える。それぞれの学級の枠をはずし、次数を割り出しながら、3学級で歩んできた。その中でみんなで協力して教科を分担したり、家庭と連絡をとったりしてきた。地域には最後まで「お願いする」という姿勢を貫いてきた。人材を活用するのではない。人に出会いその人のいきざまに感じ、共に子どもを育てるという視点が持てる事こそ大切だと考えてきた。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) 一人一人のよさと、その子の伸びを評価する。その子とともに共感する事が評価だと考えている。学習ノート、日記などから垣間見る一人一人のよさに自分自身が気づくことが評価だと学年で話し合っている。			
(8) 成果と課題 子どもたちは、どの活動も自分で考え自分で決めて自分で行動しようとしてきたと思う。活動の根幹を支えるのは、私達の願いである。願いをどう具現化するか常に考え子どもに向かうことの大切さを学んだ。また地域の人には、その人丸抱えでせさせする事が大切だということがよくわかった。利用するのではない。その人の生き方に学ぶのである。 時数、教科の横断的な活動の創造など今後の課題である。			

テーマの分類 横断的・総合的な課題( -ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境  
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題